



本当は損するお得な保険のコンセプト

一般社団法人 原子力安全推進協会

技術士（原子力・放射線）、博士（工学）、2級ファイナンシャル・プランニング技術士

亀山 雅司 Masashi KAMEYAMA

保険料は生活費に占める割合が大きく、ライフプラン見なおしのキーワードの一つと言われている。

1日でも入院すると保険金が支払われる保険はお得だろうか？損だろうか？

皆さんはどう判断するだろうか。

最近、私は社会に一般にみられる判断の根拠について危機感を感じている。本件は身近にある保険を例に一緒に考えて頂ければと思う。

保険を見直そうとすると、最近「1日の入院でも保険の支払があるお得な保険」を勧められることが多くなっている。

私は極力加入しない。

私が加入しないのは、この保険がお得であることは原理的にあり得ないし、そもそも保険であるかどうか疑わしいからである。

保険員になぜお得なのか聞いてみると「1日だけの入院の割合は多いのですよ。この保険なら1日から支給されますからお得です」という返事が返ってくる。

どうやら保険金が支給される機会が多いことを「お得」と表現している節がある。

実際に1日の入院で保険金が支給されて嬉しかったというお客様もいる。

しかし、実際にお得かどうかは保険の仕組みを考えてれば分かる。「保険の還元率は徴収金額より大幅に少ない。保険の支払が多くなると、その分以上に徴収を増やさなければ保険業はなりたたない。」つまり、期待値で考えればお得な保険は存在しない。期待値は絶対にマイナスである。

1日だけの入院の割合が多いのであれば、それだけ期待値で考えた場合の加入者の赤字は広がるのである。

これで本件は片付いた・・・のではない。

保険料が高いか安いという課題の問いかけは、実はそれ自体がフェイクなのである。

人間は質問を出されると答えを出そうとする習性がある。「1日でも入院すると保険金が支払われる保険はお得だろうか？」

か？」

この文章を読んだあなたは「得かな？理由は・・・」と考えているはずである。

そもそも何の目的でそういう質問をされているのか問いたさないし、「1日の入院でも保険支払がある」状態が前提になってしまっていることに気が付く人は少ない。

本当に議論すべきは、保険はどういう状況でかけるべきかであり、判断根拠は「保険の定義に合致しているか。保険の必要があるか」である。

私が保険に入る目的は明確である。

保険は期待値で考えると絶対に損をする。しかし、損が分かっても、いざという時に家族の生活が破たんするような巨額な支払いを回避できる。私の目的はそれであり、そもそも保険はそういう目的で生まれている。期待値が損だと分かっても、それに代えがたい利点があるのである。

1日の入院はどうだろうか？1日の入院で家族が露頭に迷うことはない。

つまり、そこには保険に期待する役割がなく、保険の定義に入っていないとも言える。

ならば、マイナスの期待値の保険を掛けるのではなく、その分の保険料を貯金しておく方が絶対にお得である。

ちなみに、期待値がマイナスでも時折発生する得を期待して行う契約も存在する。投機である。

しかし、本件の場合、期待値がマイナスな上にリターンが1日の保険金支払いに限定されている。全く割に合わない投機である。

一方で、保険会社からみれば、加入者が深刻な病気にかかるか1日の入院で回復するかは経営のリスクに関係がない。それぞれの確率に応じて損しない料金を設定した保険を作ればよいのである。保険会社は、保険を使ってもらい機会が多いほど利益を得られる機会が増える。

私は課題の解決は「①解決の目的の設定」「②解法の検討」が必要だと考えている。特に不確実性や価値の多様化が進む社会では①なくしては②の努力に意味がない場合が多い。

一方で、最近では、意識的に①のステップを飛ばして②のステップの解法の是非を問う（つまり目的の設定が不問になることを狙う）テクニックが使われている場合も多い。

多くは②の論理が薄弱なため、少し考えれば矛盾が分かる。しかし、何のために課題を解決するのかという①の視点を奪うため、単純なトリックでも世論を作ることができてしまう。

例えば、二酸化炭素を出さない電気自動車はゼロエミッションだ、課題は充電スタンドを増やすことだ、という宣伝文句を信じている人は沢山いる。

しかし、ゼロエミッションの目的は何か考えるとどうだろうか。環境のためだというのなら、ゼロエミッションの目的は地球全体に対するゼロエミッションである。

そうすると、電気自動車の充電プラグは主に火力発電所に繋がっているのだから、ゼロエミッションではあり得ない。充電スタンドを増やすことは本当の目的の解法にはならない。

「水素社会がくればエネルギーには困らない。水（H₂O）はどこにでもあるから」というのも根強い。実際に水素スタンドの設置も始まった。

これも目的は地球全体で考えた場合のエネルギー供給なのだから、水をどこかの電気エネルギーで分解して水素を作るのであればエネルギー供給は増えない。したがって、水がどこにでもあるというのは本当の目的の解法にならない。

ちなみに、「水素社会がくればエネルギーには困らない」は本当か、という質問を講演などで頂くことがある。本当は根本まで遡って説明したいのだが時間がない。そのため「化石エネルギーには困らない。二酸化炭素（CO₂）はどこにでもあるから（そこから化石燃料を作ればいい）」とお伝えしている。これは分かりやすいようで、会場はくすくす笑いで包

まれる。

最近では太陽光発電と風力発電の併設による「24時間発電が可能」な自然エネルギーも登場した。

こういう例は枚挙に暇がない。

私達は、トリックに踊らされないために「①解決の目的の設定」「②解法の検討」という2つのステップを意識する必要があると私は考えている。

さて、以上を踏まえると、日常の判断が相当変わることになり気が付く。そして、皆さんにお尋ねしたい質問がある。「設備の事故など、影響が大変大きい、非常に確率の低い事象」はどう考えるべきだろうか？

私達は「影響が大きくて非常に確率の低い事象」に対してどういう「①解決の目的の設定」をし、「②解法の検討」を用意する、のだろうか。

私の答えは決まっている。

是非、皆さんの答えをシェアして頂ければ嬉しい。

（平成26年11月13日）

著者紹介



著者：亀山 雅司
所属・役職：原子力安全推進協会
安全性向上部副部長
専門分野：機械設備の保全技術の開発
と現実化、心理コーチング

“私論・試論・議論”

編集委員長 田口 耕世

本学会員の技術者からの声で、この欄を開設することにした。原子力の技術者には、いかにまじめな人間が多いか。技術に率直な保全に係る人が多いということ強く感じる。様々な意見、考えを持つ人がいるが、なかなかそれを披露して、議論する場がない。この場を意見の交換、議論の場として、提供する。投稿したい、発言したい、という声に答えたい。会員の様々な角度からの意見、発言に期待する。

2ページ以内、半ページでも構いません。誹謗中傷以外の意見であれば、基本的に採用します。事務局にメールで投稿ください。

投稿先：保全学会誌事務局 Email: secretariat@jsm.or.jp